



今月の案内人
 榎前町 加藤辰雄さん(左)
 加藤弥一さん(右)



★榎前町のクロガネモチ



その20

榎前のクロガネモチ

県道南中根小垣江線を西から東へ走っていると、ふと目に付く大きな木。これは、クロガネモチという名前の木です。近づいて、よく見ると、1本ではなく雌雄の2本の木があることに気がつきます。雄木は周囲3m30cm、雌木は2m10cm、樹齢は約400年と、とても大きく古い木です。

かつて、ここ榎前町では各家庭の屋敷の鬼門に、モチの木を植える風習がありました。また、モチはモチでも「カネモチ」といって、屋敷に一本植えておくとお金が貯まると子どもものころに聞いたこともあります。そのため、クロガネモチは榎前町のそこかしこに植えられていました。しかし、干し物をするときに日陰になるので、ここ数十年の間に大部分が切られてしまい、

残っている木は少なくなってしまいました。

さて、このクロガネモチの木は、ねじれているため木材には向いていません。昔からこの性質を「ネジモチ」と呼んでおり、人間でも人の言うことを素直に聞かない人のことを「あの人はネジモチだ」と揶揄することがあります。また、この木は炭にしても火力が弱いため使い物にならず、資源としては全く使い道がありません。

しかし、クロガネモチには、こんな意外な利用法があります。クロガネモチの皮を金づちでたたき、その後、水でよく洗い、繊維を取り除くとべたべたな部分が残ります。これがいわゆる「トリモチ」です。子どものは、よくこれを使って遊んだものです。